

2022年度第3回産業医部会幹事会議事録

日時：日時：2023年2月19日（日）14：30～17：30

場所：Web会議（ZOOM）

（敬称略）

出席：宮本俊明、小田原努、森口次郎、原俊之、菅原保、大橋力、加藤憲忠、
谷山佳津子、福本正勝、塚原照臣、西澤依小、石川浩二、遠田和彦、西賢一郎、
伊藤正人、岩根幹能、奥田昌之、真鍋憲幸、杉原由紀、池上和範、黒崎靖嘉
（監事）深澤健二
（オブザーバー）羽賀将衛、深井恭佑、塩田直樹
欠席：各務竹康、斎藤恵、大神明専門医制度担当理事

1. 審議事項

①前回幹事会議事録の確認（資料1）

石川幹事より議事録の確認があり、修正事項があれば1週間以内に連絡し、それを受けて確定とすることとなった。

②2023年度事業計画について、2022年度活動報告案について（資料2、追加資料）

石川幹事より、事業計画は例年どおりの内容を踏襲した内容として作成していると報告があった。また学会の重点事項14項目についての記載が求められ、各種活動をあてはめて作成したと説明があった。また石川幹事から、2022年度の活動報告案について説明があった。

③2022年度の予算消化状況について（資料3）

加藤幹事より、1月末時点での予算執行状況は、収入が101%、支出が106%であったと報告があった。大きな支出であるPコースと産業医部会報の金額がほぼ反映されているので、2022年度の決算にほぼ近くなる見込みと補足があった。

④2023年度予算案について（資料4）

加藤幹事より、予算案について、必要以上に内部留保がある状態を避けるため、単年度約80万円の赤字を見込んでいること、5月の学会時に、顔合わせして決めることだけを審議する際の費用として、幹事会費を計上予定であると報告があった。宮本部長よりクオカードの留保の有無の確認があり、ないことが確認された。

⑤専門医制度について

特に報告事項なし。

⑥医部会報について（編集委員会）（資料5）

原幹事より、第75号が石川幹事の担当で1950部発行されたこと、第77号原幹事が主担当で編集作業中であることが報告された。化学物質の自主管理について、大前先生に計

6 回ご寄稿いただく予定で、うち 2 回は質問に回答いただく形となることになり、真鍋幹事中心に質問を募集していくこと、また協力要請があった。

学会のメルマガについては編集委員会でとりまとめ、池上幹事中心にまとめて広報委員会へ提出することとなったと報告があった。

真鍋幹事より、部会員名簿についての取扱いについて、入手方法、管理方法について確認があった。宮本部会長より、管理方法について審議依頼があった。各地方会では、MLの作成予定、部会報記事や講師依頼等に利用していると意見があった。今後年 1 回 10 月に部会長が入手して地方会部会長へ提供することとした。真鍋幹事へ名簿の管理要領作成依頼があり承認された。

⑦プロフェッショナルコースについて

2022 年 1 月 21～22 日に「備える産業保健～大切な社員を守るために産業医にできること、知っておくべきこと」というテーマで、ポストベンション、化学物質の自律的管理について扱い開催したと報告があった。また 3 年ぶりの現地開催+ライブ配信と初のハイブリッド形式で開催し、特に大きなトラブルなく終了し、参加者は現地参加 24 名、Web 参加 35 名計 59 名と過去最大の参加者数であったこと、参加者アンケートでは 4.63 点（5 点満点）と高い評価であったと報告があった。森口副部長、谷山幹事、杉原幹事からも大好評との感想とお礼があった。

⑧ポスター発表優秀賞について（資料 6）

西條幹事より、次期は審査委員長交代になること、論文化されたものの扱い、ハイブリット開催時以外の開催の検討方針について、申しおくり事項について報告があった。委員長は次回幹事会までに現在の委員の互選で選出することとなった。

⑨化学物質ワーキンググループについて

宮本部会長より、化学物質の係る専門家委員会検討会報告書から、呼吸保護具の内側での濃度を意味する「濃度基準値」が加わること、その考え方について説明があった。許容濃度と異なり、安全に使用できるという趣旨での濃度基準値が設定されること、また濃度基準値を越えたら速やかに健診を実施する必要があること、またその他にリスクアセスメント実施後、必要となった際にも健診を実施すること、その他、記録保存期間は、健診実施後であることなどの説明があった。ただ、健診実施の要否、項目の選定について、法律の構造上懸念事項があるため、部会でワーキンググループを組むこととなった。メンバーについて、宮本部会長の他、小田原副部長、池上幹事、加藤幹事、真鍋幹事、塩田新幹事、その他 山本健也先生、山瀧一先生、山本誠先生が選定された。森口副部長より、本 WG の成果について確認があり、学会の見解レベルと回答があった。深澤監事より、健診機関への助言の確認があり、無駄な健診についての抑制などの議論となる方向性となると意見があった。

⑩第 96 回学会（宇都宮）医部会フォーラムについて

福本幹事より、5/11の15時30分から「働き方改革における2024年問題への備え～運輸業・建設業を中心に産業医活動について考える～」をテーマとして準備中との報告があり、また各演者の紹介があった。

⑪第96回学会（宇都宮）医部会企画について

宮本部長より、「産業医の需要供給実態」というテーマで、企画の趣旨について説明があり、また各演者についての紹介があった。

⑫第33回全国協議会（甲府）自由集会について

塚原幹事より、西澤幹事とともに、内容を検討中で、テーマは募集中であると報告があった。

⑬四部会合同シンポジウムについて

宮本部長から、テーマについて選定中であり、議論の依頼があった。真鍋幹事より、AI、Society5.0関係、池上幹事より在宅勤務、森口副部長より農業、フリーランスなどの提案があり、今後検討することとなった。

⑭部会員増と幹事の人数について【資料7】

宮本部長より、幹事定員について不明であったため、150名まで2名、以後150名につきプラス1名という提案があった。福本幹事より、人数に比して増員してきたものの、具体的な内容は不明であると発言があった。学会規程では、各地方会2名以内選出するとともに、理事長から若干名指名する、という記載であり、上記提案に沿って、増員する提案があった。大橋幹事から、前理事長より、「若干名」が定員より多いことは望ましくないとの意見があったと報告があった。監事の増員についても意見があり、まずは幹事人数の考え方について四部会長で確認し必要に応じて理事長へ確認することにした。

⑮次回幹事会の日程と宇都宮での幹事会の持ち方について

4月16日（日）14時30分から（編集委員会は13時30分から）Web開催、また宇都宮での学会期間中、5月12日（金）12時20分から1時間、昼食をとりながら現地でも開催予定となった。

⑯部会長選挙について

次回幹事会に先立ち、4月16日幹事会冒頭で開票とし、4月5日から15日を投票期間で行うこととなった。谷山幹事が投票システムを準備、運用いただくこととなった。なお候補者は学会理事（候補者）が望ましいということで、宮本部長、森口副部長、大橋幹事、真鍋幹事が候補者となると確認された。

2. 報告事項

①第32回全国協議会開催報告

原幹事より、現地参加1141名、オンライン参加787名 計1929名の参加があり、収支については、収入3081万円 2817万円 約264万円の黒字となったと報告があった。

②第33回全国協議会について

塚原幹事より、2023年10月27日から29日まで甲府市のYCC 県民文化ホール、山梨県立図書館で、現地開催とオンデマンド開催で準備をしていると報告があった。また協賛について協力依頼があった。

③第34回全国協議会について

宮本部会長より、関東地方会が担当し宮本部会長が企画運営委員長、実行委員長がイオンの増田先生で、2024年10月3日から5(6)日に木更津のかずさアカデミアパークで開催予定であることが報告された。

④第96回学会(宇都宮)について

福本幹事より、企画などプログラムは掲載されていると報告があった。また現地参加者は限定となるため、早めに申し込むよう広報依頼があった。

⑤第97回学会(広島)について

真鍋幹事より、真鍋幹事が企画運営委員長、塩田次期幹事が実行委員長で、2024年5月22日か25日に広島市平和公園ゾーンにおいて開催予定で準備中であると報告があった。

⑥第98回学会について

宮本部会長より、近畿地方会が主催予定であったが大阪万博と重なるため、東北地方会が主催となることが決定したとの報告があった。

⑦各種委員会報告

生涯教育委員会について、伊藤幹事より、ベストGPS、奨励賞について、明日選考会議が開催予定であること、また伊藤幹事より、今回で幹事退任予定との挨拶があった。

政策法制度委員会について、森口副部長より1/26に会議があり、主に産業保健のあり方検討会と、化学物質の自主管理について議論されたと報告があった。

学術委員会について、森口副部長より、各グループの進捗状況の共有があったこと、現場と研究のギャップ解消についてはアンケート結果について報告があった。また若手研究者の会と連携して、基礎的な内容の動画を作成中で、今後学会ウェブサイトへ掲載予定であることが紹介された。

広報委員会について、黒崎幹事よりメルマガを隔月で発信予定であること、5月の学会広報は3月に発信することが勧められた。理事長からの会員アンケート依頼中であり、回答依頼があった。「私のキャリアプラン」も近日中に公表予定と報告があった。また、幹事会ML用のメールアドレスの更新について案内があった。

ダイバーシティ推進委員会について、大橋幹事より、各委員会、部会へ年度内にフォーラム、委員会オンラインセミナーを複数回開催したこと、また開催予定であると報告された。医学会連合において、西委員長が講演したこと、医学会総会でも講演予定であること等が報告された。

⑧各担当幹事報告

森口副部長より、日本医師会産業保健委員会について、産業保健総合支援事業の予算が大幅に減額予定となっており、混乱が生じるためコロナ禍前の予算に戻すよう要望をし

ていること、産業保健のあり方研究会において、産業医勤務時間が不足して、保健師の活用などヘシフトしていく実態があり危機感をもって医師会として意見していくこと、さらに一部の業者による高価な産業医研修会が開催されており、それを医師会として止める術がないことなどの紹介があった。福本幹事から、研修会はニーズが多く、協力依頼がきていることなどの報告があった。

⑨理事会報告（資料9）

大橋幹事より、2重投稿の件で、学会以外にも研究会での発表も含まれること、自己管理となることなどが追加となったこと、学会、協議会で表彰をする際には、候補となった段階で、担当者が筆頭演者に既発表演題でないことを確認することなどが補足として定められたと紹介があった。謝金について別紙のとおり変更があったこと、学会内のガイドライン、指針、内規の各文言の統一が図られたこと、産業看護部会が「産業保健看護部会」と名称変更になることなどの報告があった。会員リスト、幹事リストについての所属名の名称変更は随時マイページで更新するよう周知があった。

⑩四部会長会議報告

宮本部会長より、次回協議会に向けてテーマを選定中であると報告があった。

⑪各地方会活動報告

各地方会から活動状況の予定、報告があった。

⑫次期幹事一覧【資料】

宮本部会長より、次期幹事について紹介があり、新任幹事（今回はオブザーバー）の羽賀將衛氏、深井恭佑氏、塩田直樹氏から挨拶があった。

今期で退任予定の奥田幹事と西條幹事と伊藤幹事から挨拶があった。

⑬その他

石川幹事より、MLのアドレス変更、追加があれば総務担当へ連絡依頼があった。

以上